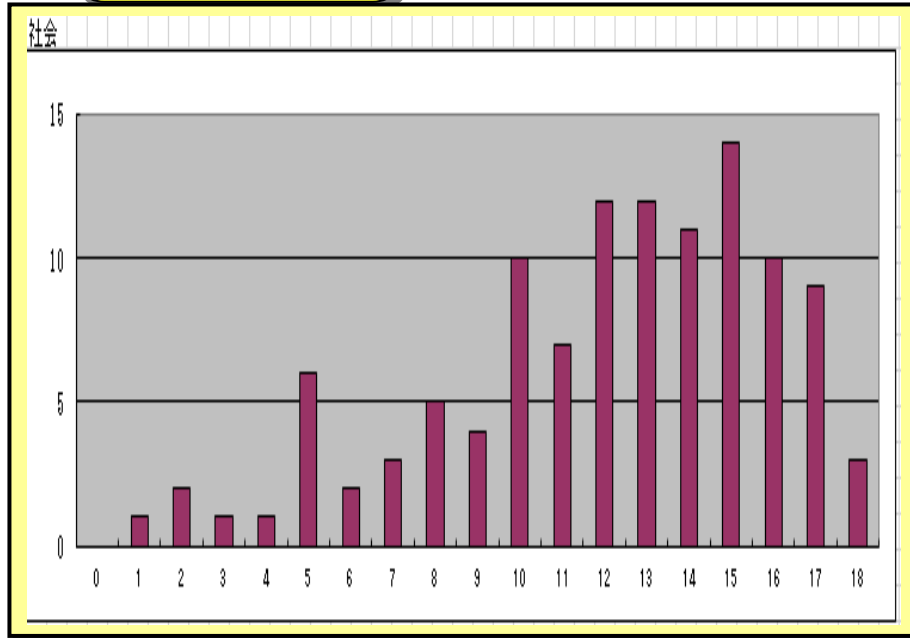


# 学力調査（5年）結果の分析・課題解決について

## 正答数分布



## 観点別正答率

A 教科の内容		
教科	学年	都
社会	66.8%	66.7%

### A 教科の内容

思考・判断・表現		技能		知識・理解	
学年	都	学年	都	学年	都
62.8%	63.5%	62.7%	66.8%	81.0%	70.6%

## 調査問題から

- ①
- 2- (2) 38.1% ごみと資源の流れの図の読み取り
  - 3- (1) 54% 年中行事の図の読み取り
  - 6- (1) 31% 110番通報のしくみの図の読み取り
- ※いずれも【観察・資料活用 of 技能】の問題
- ②
- 3- (3) 53% 年中行事の文書の読み取り問題
  - 7- (2) 53.1% イチゴの収穫について複合資料の読み取り問題。
- ※いずれも【社会的な思考・判断・表現】の問題

明らかに  
なった課題

○全体の傾向  
目標値周辺やその下あたりに集中している。目標値を超えるため、「思考・判断・表現」「技能」が都平均を下回っているため強化が必要である。

○上位層・下位層の割合  
上位層（都平均を超えている）・・・61%  
下位層（都平均に達していない）・・・39%

○教科の内容  
知識・理解は都平均を上回っているものの、それ以外の観点については下回っている。中でも技能については4.1%と大きく下回っている。資料等の読み取りが特に苦手ということが分かる。

○誤答分析  
①について  
問いに対して資料を順序を追って読み取っていくことができない。社会の知識ではなく、資料を適切に活用する力が必要とされる。

②について  
①と同じく資料を適切に読み取ることができない。さらに、読み取ったことを関連付けて一般的な価値へと考えを結びつける力が必要とされる。

## 学校

- 短期的
- ・ねらいと関連して考えたり表現したりすることを苦手としていることから、社会科の問題解決学習の流れ（つかむ、調べる、まとめる、いかす）に則った授業の構成とまとめ方をする。また、それに対応したノート指導を行う。
  - ・都道府県名の知識の定着度が低かったため、暗記だけでなく、県の形や特徴なども意識できるような指導をし、どのような問題にも対応できるように、ベーシックドリルを活用する。電子黒板のフラッシュカードを活用。（都道府県の替え歌を給食中の放送で流す、パズル、掲示物の工夫など）また、主として学習内容を扱う3・4年が指導内容の精選を図る。
- 中・長期的
- ・学習課題とまとめを意識した授業の展開を行い、児童に意識付けを行う。
  - ・前単元の内容の復習を現単元においても授業のはじめなどに復習を行う。
  - ・資料を使って何を学ばせたいか、指導者は明確なビジョンをもつ。教科書だけでなく、資料集など幅広い資料を児童の実態に合わせて活用する。（事実をもとに推論し、解決する力を伸ばす）

## 家庭

- 日常的な取組
- ・家庭学習において、苦手とされている都道府県に関する問題を出すとともに、児童が楽しみながら覚えられるように内容の工夫も行う。
- 長期休業日等での取組
- ・日常的な取組とまとめ的な内容の課題を出すとともに休み後に確認テストなどを実施する。
  - ・旅行などに関連した課題を出す。都道府県の位置を把握できるように、白地図等でおさえる。

解決策